

高等学校

教科【情報】

単元【情報Ⅰ：情報社会の問題解決】

主体的・対話的で
深い学びのポイント

問題の解決策を考える活動を通して、自分の考えをまとめることや、他者の考えを知ることによって考えを広げたり深めたりすることができる。また、グループで見通しをもって試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学習を進めることができる。

ICT活用のポイント

ICTの活用により、思考を可視化し整理してまとめることができる。また、ファイルをクラウド上に保存して共有し、グループ内で協働して学習を進めることができる。

使用する
ICT機器

P C、タブレット等【一人一台端末】

使用するアプリ・
クラウドサービス等

Google (Classroom、Jamboard)

クラウド
の活用

□教材の配布・回収等

☑資料等の共有

☑生徒の学習状況の把握

☑その他（ シミュレーション ）

本時の
ねらい

グループで解決したい情報社会の問題点のテーマを選択し、選択したテーマの根本となる原因をまとめる。

主な学習活動
(学習場面)

I C T の活用・留意点等

評価

導入

- ・ 前時の内容を振り返る **一斉**
- ・ 本時の目標を確認する

- ・ 大型提示装置を活用し、前時の確認と本時の目標を確認する。 **ICT機器** 
- ・ 各自、前時に整理した情報社会の問題点について確認する。
- ・ グループで選択した「解決したい情報社会の問題」が生じる原因を考える。 **クラウド**

展開

- ・ グループで情報社会の問題点のテーマを決定する。 **一斉**

- ・ イメージマップなどのシンキングツールを利用して、グループで選択した「解決したい情報社会の問題」に関連することを生徒一人ひとりが発想し、Jamboardに入力する。

指針4

個別で発想

クラウド

- ・ 決定したテーマの根本となる原因を個別に探る。 **個別**

- ・ 発想したことをグループのメンバーで共有したJamboardに入力し、KJ法などを用いて整理する。

指針3

グループで整理

クラウド**ここで評価**

- ・ 決定したテーマの根本となる原因をグループでまとめる。 **協働**

- ・ Jamboardに入力したデータを活用し、協働作業により、グループで妥当な原因を考える。

クラウド**ここで評価**

グループで原因を考える

- ・ その解決策を検討する。 **個別**

終末

- ・ 本時の振り返りと課題の提示

- ・ 【課題】次時の授業までに、個別に解決策を考え、まとめておくこと。

指針4

【思】情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法や考えている。

【態】情報社会の問題を発見することを通して、より広く深い学びに取り組み、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。

※ 表内の指針1～6は、「ICT活用授業指針」8ページにあるICT活用授業の目指す姿1～6を表しています。

※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。

※ 評価の観点 【知】＝知識・技能 【思】＝思考・判断・表現 【態】＝主体的に学習に取り組む態度